

## 分子認識能を有する構造規制界面の構築と分子レベル機能評価

( 研究期間：平成 1 1 年～ 1 3 年 )

任期付研究員：澤口 隆博 ( 独立行政法人産業技術総合研究所 )

総 評 ( 一定の成果が得られた研究であった )

本研究は、生化学活性を保持した状態の生体分子 ( 酵素やタンパク質など ) を本来の環境に近い条件下で取り扱う基本技術を確立し、構造規制機能界面が有する構造と機能の関係、生体分子の分子間相互作用を分子レベルで評価・解析し、分子認識能の理解を深めることを目的とするものである。

生体のエネルギー生産系の電子伝達タンパク質の 1 つであるチトクロム c をモデルタンパク質として用いることにより、一定の成果が得られており、ほぼ順調に研究が進捗したものと考えられ、また、本研究による成果が国際学術誌数紙に掲載されている点は評価できる。

なお、チトクロム c 以外のタンパク質への応用の見直しが不明であるなど、今後の進展方向が明確でないなどの面も見受けられる。

他方、任期付研究員の活用効果については、任期付研究員の持つ緊張感や使命感が、研究所全体に良い意味での刺激と競争意識を与え、研究所の活性化が図られるなどの効果が得られている。また、任期付研究員が研究に専念できるよう、予算面の配慮や研究スペースの優先的確保に努めるなど、研究所の任期付研究員に対する支援も行われている。

以上により、本研究は、総合的に一定の成果が得られた研究であったと評価できる。

< 総合評価： b >

### 評価結果

総合	1.目標達成度	2.目標設定	3.研究成果			4.任期制	
			1.科学価値	2.科学的波及効果	3.情報発信	1.活用効果	2.機関支援
b	b	b	b	b	b	b	b